

認知症高齢者の虐待 —高齢者虐待リスクアセスメントシートの活用の検討—

医療法人衆和会 長崎腎病院

○池田優樹 浦川麗加 川渕まり子 中山美季 岩永飛鳥 内田沙織 藤原久子 船越 哲

【はじめに】

当施設において認知症を有する透析患者 3 名に身体的損傷を負う虐待が疑われた。この患者を、「高齢者虐待アセスメントシート」(東京都老人総合研究所)に対応させながら、有用性を検討した。

【結果】

事例 1 82 歳 女性

顔面皮下出血著明で顔面骨折、左眼窩下壁骨折、鼻骨骨折があった。高齢者虐待窓口へ連絡し虐待内容詳細報告を行い、今後自宅での生活は危険とのことで緊急保護対象にて措置入院となった。チェックシートの結果、身体的虐待、放棄・放任、経済的虐待に該当した。

事例 2 80 歳 女性

息子の暴力で救急搬送され骨折。市介入のもと特養へ庵措置入所となった。チェックシートの結果、身体的虐待、経済的虐待に該当した。

事例 3 78 歳 男性

度重なる骨折等により地域包括センター・高齢者虐待窓口へ報告。臍損傷による腹腔内出血疑いで救急搬送となった。チェックシートの結果、身体的虐待に該当した。

【考察】

当院通院中に家庭で暴力を受け、最終的に虐待と判断された症例について「高齢者虐待チェックシート」の有用性を評価した。今回の 3 例は既に暴力による重症の外傷を受けた後の評価となったが、虐待を疑う症例については、早期から情報収集と他職種との連携を図り、虐待から患者を救う手段を構築する必要があると感じた。この場合、虐待者(加害者)の人権も問題となるため、虐待アセスメントシートに経過を当てはめて経過を追うことで客観性が得られ、早期対応の可能性があると考える。